

課題名：ヒト記憶への加齢の効果に関する脳内機構の解明とその応用可能性	
氏名：月浦崇	機関名：京都大学

1. 研究の背景

ヒトの記憶能力は加齢によって低下します(加齢要因による記憶の抑制)。一方、嬉しいことや悲しいことはより記憶されるように、記憶は様々な心理的要因によって修飾され、促進されます(心理的要因による記憶の促進)。しかし、これらの要因が脳内でのどのように相互作用しているのかについては、未だ解明されていません。

2. 研究の目標

本研究では、①加齢と心理的要因がヒト記憶に与える影響の基盤となる脳内機構を解明し、②その成果を生かして高齢者の記憶機能を維持・向上させる記憶訓練法を解明、その効果を明らかにすることを目的とします。

3. 研究の特色

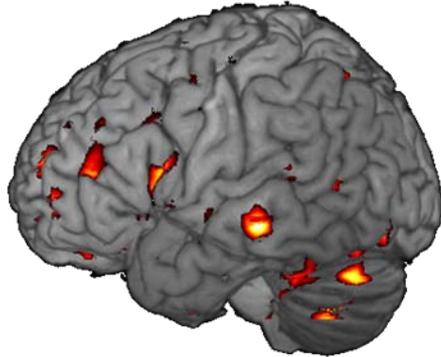
本研究では、①健常若年成人・高齢者を対象とした脳機能イメージング研究、②脳損傷患者を対象とした行動学的研究、を基礎研究として行い、さらに③記憶機能と心理・生活介入との関係を解明する応用研究を行います。このように異なる複数のアプローチを用いて基礎から臨床・応用へと架橋する本研究の特色は、世界的に例がない最先端のものです。

4. 将来的に期待される効果や応用分野

本研究の成果は、高齢者が記憶機能の維持・向上を通して社会の一員として健やかな生活を送るための医療・教育等のイノベーションへ貢献し、今後健康寿命の延伸が重要な問題となる他の先進国に先駆け、日本が加齢研究の分野で国際貢献を行う礎となることが期待されます。

研究概要

心理学と神経科学を融合した3つの方法からのアプローチ



脳機能イメージング研究
(健常若年成人・高齢者)

機能的妥当性
の検証

新しい研究手法
の提案

認知神経心理学研究
(脳損傷患者)

介入研究
(健常高齢者)

応用可能性
の検証

・栄養／生活習慣
・記憶トレーニング

